第３回今金町１２０年記念事業推進委員会　報告書

（今金町ふるさと創生支援委員会）

１　日　時　　平成２８年１１月２９日（火）
２　場　所　　今金町役場２階会議室
３　出席者　　今金町１２０年記念事業推進委員会　※津村委員、辻委員は欠席。
　　事務局　　室長　山田薫、主幹　早坂靖、主事補　久保田諒
　　まちづくり推進課長　寺崎　康史

４　てん末　　以下の通り報告いたします。

・委員長あいさつ・・・仁木委員長よりあいさつ	
「雪も多く積もり、それぞれ大変な時期に差し掛かっている中、お集まりいただき、ありがとうございます。今回の会議では、前回協議した記念品やイメージアップ事業についての詳細や、町民提案事業の概要などについて協議したいので、よろしくお願いします。また、これらの事業以外にも、みなさまのご提案される事業やご意見がありましたら、積極的にいただきたいと思います。」	
・報告事項	
今金町１２０年記念品及びイメージアップ事業の詳細内容について （町関係者及び財政担当と協議後の結果）	
事務局 早坂主幹より説明。第２回１２０年記念推進委員会でいただいたご意見を反映させた記念品やイメージアップ事業の詳細な内容を確認。先日財政査定が行われ、町長や財政当局よりこれらの事業について査定をいただいた。そこで、１２０年記念品の配布方法について、事業参加用記念品では、イベントの参加率も含めて不平等を生むので、事業ごとにもらえる記念品を分けてはといった意見をいただいた。その他、役場郵便封筒や、懸垂幕事業などを含め了承をいただいた。これらを加味し、推進委員会の方々の意見を伺いたい。	
仁木会長	前回の会議で出た意見が反映されているので、これを参考にまた意見をいただきたい。また、財政査定の意見についても協議したい。
末藤委員	役場郵便封筒について、１２０年記念でせっかく作るのだから、１２０年の文字を消して２９年度以降も使えないだろうか。配布方法は、やはり自治会長に依頼して配布していただくのが一番自然な形だと思う。
山田室長	新たに１２０年用に作り直すので、その分単価も多少上がっている。その場合はさらに財政課などと協議、検討が必要である。
・１２０年記念品の配布方法について	
仁木委員長	記念事業には集客力があり人が多く集まるので、配布しやすい。さらに、実施イベントのパンフレットをバッグの中に入れるといいと思う。

中谷委員	複数のイベントの開催日が近い場合は、同じものを配布するのではなく、エコバッグとタオルを分けるなどすると、喜んでもらえるのではないか。
山田室長	事業・イベント主催者に選んでもらうのもいいかもしれない。体育系の事業であればタオル、文化系の事業であればエコバッグなど。
佐藤貴弘委員	事業に参加しなくても、記念品はもらえるのか？不公平をなくすのなら、病院や役場などの公共施設で欲しい方に配布してもいいのでは。
山田室長	当初からすべてそのように配布すると、事業に参加して配布する意味が薄れてしまうので難しいが、事業完了後に余剰分を自由に配布すれば、不公平もなくせるのではないか。
末藤委員	お子さんの人数も家庭によって違うので、ばらつきがあるのでは。
山田室長	そういったばらつきの部分については、全戸配布記念品でバランスをとっていく予定。さらに、先ほどいただいた意見のように事業完了後に公共施設などで余剰分の記念品を配布する形でいいと思う。
早坂主幹	敬老会など人の多く集めるイベントなどに、１２０年記念の冠をつけていただければ記念品を配布することが出来るので、そういった事業に協力いただければ、自然に広くいきわたると思う。
佐藤貴弘委員	どうしても欲しい方は公共施設を利用してもらうにくるだろうから、そこまで公平・不公平にこだわらなくてもいいのでは。事業参加用記念品は１つ約３００円ほどなので、あまり気にせずどんどん作ってはどうか。
山田室長	心強い意見とてもありがたい。これらの事業は基金を活用するため、慎重に協議を重ねつつ、実施に移していきたいと考えている。
・協議事項	
１２０年記念町民提案事業について	
事務局 早坂主幹より説明。１１月１１日までに募集していた町民提案事業を募集してきていた。そこで仮申請のあった４つの事業について、頭出しの段階ではあるが、ご意見をいただきたい。みなさまの承認ののち、本申請していただく形となる。	
山崎委員	資料③の事業などは、クアプラザピリカがあることが前提の事業なのか？クアプラザを今後どうしていくかにかかわってくるのではないか。
寺崎課長	今のところ未定である。
山田室長	基本的に事業を実施する上では、クアプラザピリカが存続している前提で進めていきたいと考えている。
山北委員	１２０年の冠を持つ以上はなるべく町民が参加しやすい事業が望ましい。②など商品として販売するというよりは、町民向けに大々的に試飲会のような形ならいいと思う。
佐藤貴弘委員	町民からいただいた事業は、却下とすることは難しいのか？
山田室長	提案事業なので、できれば申請は行いたいが、他補助でも可能な事業などは、そちらで支援できることもあるので、申請者とも相談となる。

仁木委員長	今後の委員会については、事業提案のあった際や、記念事業の詳細が決まり次第、都度集会したい。また、今後は委員の方々の中からも新たに提案事業があれば、ご連絡いただきたい。まだまだ団体の事業なども提案があると思うので、早めの情報提供をいただければ嬉しい。

・副委員長挨拶・・・多田副委員長より挨拶

「記念品事業など、前回の意見がよく反映されていてとてもありがたい。協議されていた配布方法については、広く配布したい以上は、どうしても重複してしまう部分はでてきてしまうので、そういった部分については仕方がないと思う。今後も積極的に意見を交換し合い、よりよい１２０年記念としたい。」

まとめ

・１２０年記念品の配布方法について

・全戸配布記念品についてはそれぞれの自治会長に委託し公平に配布していただきたい。

・事業参加用記念品は、事業・イベント主催者に事業内容に合わせてエコバッグかタオル選んでいただき、参加できなかった方にはその余剰分を役場など公共施設で配布することとする。また、イベントのスケジュールが近い場合は、なるべく同じものではなく、別な記念品を配ることが出来たらいい。

・敬老会など多くの人が参加する事業に１２０年記念の冠をつけていただければ、より多くの町民に記念品を配布できるので、協力いただけるよう積極的に働きかけたい。

・１２０年記念町民提案事業について

・概要説明の段階だが、了承をいただいた。今後は本申請を行い、事業内容が詳細に決まり次第再び意見をいただきたい。

・１２０年の冠がつくので、なるべくならば、より町民の参加しやすい町民還元事業が望ましい。

・そのほかに委員の方々の中や、町民提案事業・各団体事業があれば、早めの情報提供を行い、必要に応じて委員会を開催し、意見をいただく。